

研究開発課題説明資料（事前評価）

1. 課題名（期間）

米国における建築ブリーフの位置づけと実運用に関する調査（平成16年度）

2. 主担当者（所属グループ）

眞方山美穂（生産グループ）

3. 背景及び目的・必要性

ブリーフは、建築物の建設事業の初期段階において発注者や使用者の建築物への要求等を明示化し、当初の目的に合致した形でその後の建設プロセスを進めていくことを可能とする。

現状、我が国の建築プロセスにおいては、ブリーフィングという概念が定着しておらず、建築の企画段階、設計段階、また設計・施工契約段階において、作るべき建築物のあり様が不明確なままの状態が進められていることが多い。また、これらの建築物に関する機能や性能等の要求を誰が、どのような責任関係の下で明示しているのか、また建築プロジェクトに関わる各主体間においてこれらの情報を伝達する方法には、さまざまな問題がある。

4. 研究開発の概要・範囲

現在、契約上の責任分担が厳格な欧米においては、この仕様書は商用の支援ソフトウェアを用いて作成されており、欧米型の仕様書システムの考え方は、発注者や設計者が行う工事仕様の品質管理や工事発注の積算への活用も考慮されたものとなっている。

本調査研究では、米国で用いられている商用の仕様書作成ソフトのシステムとしての機能を解析することにより、米国におけるブリーフ作成の手法を整理する。さらにブリーフの内容とマスター仕様書の各項目の分類体系との関係を検討し、実際にブリーフの記述が仕様情報に展開されるしくみを検討する。

5. 達成すべき目標

本調査研究により、ブリーフの具体的な内容に関する資料が収集され、またブリーフの内容とマスター仕様の分類体系との関係に関する資料が整理される。これらについては、ブリーフおよびマスター仕様との関連に関する資料を整理したかどうかにより評価する。

6. 進捗状況（継続課題のみ）